

(別紙) 応募用紙「土木広報大賞 2021」

団体名：株式会社 荒木組			
応募部門 (複数選択可)	<input type="checkbox"/> イベント部門	<input type="checkbox"/> 映像・メディア部門	<input checked="" type="checkbox"/> 広報ツール・アイテム部門
	<input checked="" type="checkbox"/> 教育・教材部門	<input type="checkbox"/> 商業広告部門	<input type="checkbox"/> 企画部門

土木広報活動または作品名：絵本「どぼくのおしごと おだがわさいがいへん」

広報活動または作品の概要

制作経緯

建設業では担い手不足が深刻化していますが、小さな子どもたちや親御さんに土木の仕事の役割や建設業の魅力を知ってもらい、将来建設業を目指すきっかけのひとつとなるように、土木の仕事を描いたオリジナル絵本を制作しました。コロナ禍により工事現場見学会を通じた体験活動が少なくなっている中、おうち時間に親御さんと一緒に建設業に触れることができるツールとして絵本を選定しました。



テーマは災害復旧工事

土木の仕事を紹介するとともに、住んでいる地域を襲った大災害による復旧・復興活動についても知り、地域を大切にしてもらいたいとの思いから、平成 30 年 7 月に西日本を襲った集中豪雨により堤防が決壊し、大規模な浸水被害からの堤防復旧活動やその後の復興事業をテーマに選びました。

優しく温かみのあるキャラクター

作者は岡山県で活躍している童画家 中山忍さん。工事や建設機械を描くのは初めてのことで、堤防の被災現場や工事現場を訪問し復興事業を取材して制作しました。優しく温かみのあるキャラクターで災害発生時の様子もリアルになり過ぎないように、柔らかなタッチで描かれています。

ストーリー

最初に、災害が起きた時の土木の仕事の役割を紹介した後、実際行われた災害復旧工事について話が進みます。大雨が降り、河川堤防が決壊して住宅地にまで水がきました。全国から排水ポンプ車が駆けつけてあふれた水を川に戻します。水が引いた後、すぐに堤防の応急復旧作業が始まり、夜も作業を続けます。川の木を切り、土砂を取り除き川幅を広くします。その後、復興事業として小田川と高梁川の合流点を付け替えて川の流れを良くする工事を進めています。たくさんの働く車が活躍する様子やICT施工も紹介して、子どもたちの興味を引く工夫をしています。まえがきには、親御さんなど読み聞かせる人に向けて絵本制作に込めた思いを記載しました。



絵本について

名称：絵本「どぼくのおしごと おだがわさいがいへん」

発行日：2021年6月28日 第1刷発行

仕様/価格/発行部数：B5判 22ページ/無料/1,000冊

企画構成・発行所：株式会社 荒木組

作・絵：中山 忍



読み聞かせ動画

絵本を病院の待ち時間など場所を選ばず気軽に読めるように、絵本の読み聞かせ動画「荒木組 絵本動画『どぼくのおしごと おだがわさいがいへん』」を制作してYouTubeで配信しています。

<https://www.youtube.com/watch?v=LAIMDi6oJLI>



YouTube 絵本動画

広報活動または作品の効果

1,000冊制作して寄贈、絵本の読み聞かせも

倉敷市教育委員会にて寄贈式を行い、被災した地域の小学校や幼稚園、保育園に寄贈したほか、岡山県内の図書館や児童養護施設、保育施設などにも寄贈しました。児童養護施設では寄贈式とあわせて、絵本の読み聞かせも行い、子どもたちに喜んでもらいました。現場の仮囲いに動画のQRコードが付いた絵本PRポスターを掲示して紹介しています。



メディア紹介

山陽新聞の「豪雨災害から3年目」という特集に絵本のPRを1面で掲載したところ、多くの反響がありました。倉敷市への寄贈式の様子（TV2社、新聞2社）や児童養護施設での読み聞かせの様子（TV2社、新聞1社）がメディアで紹介されました。また、ケーブルテレビで絵本制作の特集が放送されました。

子どもたちから感謝の手紙

絵本を寄贈した施設から感謝の手紙がたくさん届き、子どもたちや職員の皆さまから感想が寄せられました。

(感想の一部を掲載)

○真備町で災害があった時、復旧作業がされていたことがよく分かりました。楽しく読めました。○かわいいイラストと分かりやすい説明をしてある絵本を頂きありがとうございました。○色々な車を使い、真備町の復旧をしていることにビックリしました。○真備・小田川の改修工事が子どもたちにも分かりやすく書かれており、岡山でもこのような大災害があったことを記憶に残してくれるのではないかと思います。○絵本を読んでもらった子どもたち、様々な場所での工事を見るたびに絵本を思い出します。

